

ノアちゃんを助きたい

高田 蝶子

インドではコロナウイルスが拡大し、私の家族は日本に避難帰国が決まっていました。ロックダウンもあと1週間で始まります。

私は友達と散歩をしていた時、骨の形がよくわかる程痩せ細っている犬を見つけました。その犬はフラフラと寄ってきました。

そういえば、この犬を見たことがありました。かわいい数匹の子犬を連れた母犬でした。しかし、あたりには子犬が一匹もおらず、このかわいそうな犬をほってはおけませんでした。このままでは死んでしまう、せめてご飯をあげたいと思い、その日の午後に家にあったキャットフードをあげにいきました。美味しそうに食べているのを見ていると、私も嬉しくなってきました。

それからは毎日ご飯をあげに行きました。母と私を見つけると、喜んでシッポをふって待っていました。しかし、困った事がありました。いつも、そばには雄犬がいて、この母犬は毎回この雄犬にご飯を横取りされていたのです。追い払おうとするのですが、雄犬は、私たちのことなんか気にもしません。目はご飯しか見ておらず、よだれを垂らしてうなってくるので怖いのです。次の日から黒い傘を持っていったのですが、雄犬には効果がありませんでした。

この母犬には、ハエがたかっていたり、体に傷がたくさんあったので、私たちでは無理だと思い、獣医に往診してもらうことにしました。野犬であるのに診てもらえると聞き、ほっとしました。この獣医はこの街のメイン通りで三百匹以上もの避妊手術をしたと言い、こんなにたくさん手術をしているのに、まだまだ野犬はいるんだなあと思いました。

獣医から薬とフードを処方してもらいました。肉と混ぜた薬は、雄犬が寄ってくる前にあげなければいけませんでした。しかし、数日たつとこの母犬は薬を見ぬいてきて、肉だけ食べて、薬も何回か口にもっていかないと食べませんでした。

さらに、この母犬の背中の中の傷が開いてきてしまい、また獣医に往診してもらいました。不衛生なゴミ捨て場にいたら傷はよくなりと言われ、病院に三日間入院させる事にしました。また、この犬を養子縁組に出したらどうかとすすめられました。

もし、飼い主が見つかったら、それはとても嬉しい事です。でも、私は悲しくもあります。私はとてもこの犬を飼いたいのです。けれども、私は犬猫のアレルギーがあるので飼えません。さらに、ロックダウンも厳しくなってきました、なかなか気軽に会いに行けず、なおさら会いたいと思いました。悲しくて寂しいけれど、養子縁組にお願いしました。

その間、もっともっとこの犬のことを考えるようになりました。全身が真っ黒の毛で舌だけピンク色、そして行儀が良くて人懐っこい、この犬を見れば誰でも好きになると思います。家族で考えて「ノア」という名前も付けました。フランス語の黒から取りました。

色々と養子先を探しましたが、見つからずノアちゃんは、元の場所に戻されました。本当は、飼い主が見つからないといいな、と思っていたので少し嬉しかったです。

数日後、私の家族は急きょ日本に帰ることになりました。ここでノアちゃんにご飯をあげないとまた痩せてしまいます。どうしたら毎日ご飯をあげられるか考えました。ずっと病院に預けることも出来ません。

結局、父のドライバーにお願いすることになりました。しかしながら、ロックダウンがますます厳しくなってきました、ドライバーが来ることも難しくなりました。困っていると、同じ敷地内に住んでいる母の友人がノアちゃんを助けてくれて、今もご飯をあげてくれています。

まずは、ノアちゃんの体重を戻したら、避妊手術をする予定です。私たちがいなくても獣医が連れていってくれるので安心です。預けている時に、予防接種もしてもらいました。

私はノアちゃんを日本に連れて帰ろうと思っています。けれども、日本の検疫は厳しいし、野犬なので、連れて帰るのは難しいです。ノアちゃんを連れて帰るには、どうしたらいいのか、また、何をしたらいいのかを考えたいです。

世界には沢山の野犬がいます。そのすべての野犬を救うことは出来ません。けれども、そのうちのたった一匹ですが、その一匹を救えると思うと少し嬉しいです。

飼い犬はすべてのことで守られていて、何も心配することはないこと。しかし、野犬は厳しいテリトリーがありご飯もない、病院にもいけない、まさにサバイバルの毎日ということに気づかされました。私は世界中のかわいそうな犬がみな幸せになれることを願っています。

インドに戻るまで、ノアちゃんに無事でいてほしいです。

